

Mado窓



脳神経外科学教授就任のご挨拶と 今後の抱負に関しまして

北里大学脳神経外科学主任教授 隈部 俊宏

この度、平成25年4月1日付けで北里大学医学部脳神経外科学の主任教授を拝命致しましたので、この場をお借りしてご挨拶を申し上げます。

北里大学医学部脳神経外科学教室は、北里大学医学部ならびに北里大学病院開設とともに1970年に開設されました。初代矢田賢三教授、大和田隆助教授指導のもと、新設医科大学として短期間のうちに全国でトップレベルの症例数を誇るまでに急速に成長致しました。1986年4月には救命救急センターが併設され、大和田隆先生が初代センター長として就任され、24時間専任スタッフが救急疾患に対応するシステムが構築されました。脳神経疾患の中ではくも膜下出血・脳内出血や一刻を争う脳梗塞を含む脳血管性障害や、頭部・脊椎外傷を担当することとなりました。一方、比較的時間経過を見る事が可能な脳血管性障害・脳腫瘍・脊椎脊髄末梢神経疾患・小児先天性疾患・機能的脳脊髄疾患等は、一般病棟でじっくりと腰を据えて治療する体制が整いました。両者は緊密に連携し、その結果バランスのとれた脳神経外科医が育成されて参りました。1995年6月より、現北里大学理事長・藤井清孝先生が教授として着任され、さらに教室は発展し現在に至ります。ここまでの教室紹介の文章は藤井先生よりお教え頂きました。

このような歴史と活気のある北里大学医学部脳神経外科学教室を主宰するにあたり、身が引き締まる思いでございます。大学入学後33年間過ごして参りました東北の地・仙台より着任して、ちょうど4週間が経過致しましたが、まさに怒濤のような毎日を過ごしておりました。幸いにして大型連休に入ったおかげで、こうして教授室の机に向かい、この文章を記載することができております。外は抜けるような青空で、北里大学敷地内の緑は青々と繁り、風が心地よく流れています。

北里大学は来年の新病院開設とともに、脳卒中センターを起動することとなります。昨年神経内科主任教授に着任されました閉塞性脳血管性障害のプロフェッショナルである西山和利先生と協力して、この脳卒中センターを順調に機能させることが一つ大きな課題となっております。そのためには、循環器内科を含めた内科各科・放射線科・リ

ハビリテーション科・事務方等と、顔の見える、連携のとれたシステムを構築する必要があります。当大学に着任して私が一番感嘆している点として、各部門の良好な交流と、様々な変化に柔軟に対応できるフットワークの軽さが挙げられます。チーム医療として脳卒中センターがまとまっていくことがきっとできると信じております。脳卒中センター開設とともに、救命救急センターとのバランスと連携をうまくとることは私の大事な任務であると覚悟しております。脳卒中（くも膜下出血・脳内出血・脳梗塞）は、すべてが3次救急として搬送される訳ではありません。むしろ、脳梗塞では、将来的に真の「脳卒中」として搬送される前の警告症状として、出現している軽度な症状を見逃さずに的確な治療を行う必要があります。この医療介入により社会復帰して有益な人生を維持させてあげることは、極めて重要な意義があります。現在の救命救急センターが担っている3次救急は、北里大学として間違いなく今後とも責任を持って担当しなければなりません。こういった症例（22.5次救急）を脳卒中センターで漏れのないように治療して行く必要があります。地域の開業の先生・病院と、やはり顔の見える連携システムを作り上げなければなりません。神奈川県では既にこういった活動が開始されております。脳卒中の本場である東北地方から参りました私が感嘆しているもう一つの大きなポイントであります。

外科系の医師不足が話題となって長い時間が経過しております。残念ながら脳神経外科はその最も厳しい立場にあると言えます。しかしながら、北里大学医学部脳神経外科学教室の先生達は皆、明るく、前向きで、真面目で、柔軟です。各サブスペシャリティが育っています。私の仕事は、医学部の学生さんや研修医の先生方に対して、いかに脳神経外科学が面白く、患者さん達から感謝され、生き甲斐を見いだす事ができ、自分の力を発揮できるかを伝える事にあると思います。いつの日か教室に若人が満ちあふれ、関連施設と密な交流をし、この北里を中心とした不足のない医療システムを完成させ、さらには学術的成果を国内国外に公表できるよう、教室員一同頑張ってお参ります。今後ともご指導の程何卒宜しくお願い申し上げます。

（くまべ としひろ：脳神経外科学 主任教授）

北里大学病院が進める退院支援 —入院サポート—



北里大学病院 TSC 担当看護師 仁木 町子

近年、高齢化や少子化そして地域社会の連携の変化により、退院後の患者の生活にも大きな変化が現れている。生活様式の変化により、自宅に帰れない患者も多く、病院から生活の場への移行支援は社会的にも大きな問題となっている。

北里大学病院では、新病院開院に伴い、患者の入退院、在宅医療、地域連携を支援する Total Support Center（以下TSC）の構築を進めている。これは退院支援・退院調整が必要な患者、あるいは必要性が予測される患者をTSCアセスメントシートを用いてスクリーニングし、早期介入を開始していくシステムである。これまで、退院支援・調整は患者が入院後、治療の進行と同時に進められていたため、在宅への移行や退院の計画が進まず入院の延長があった。TSC看護師は、安心・安全な療養生活の提供と計画的な入退院に向けての退院支援を開始した。今回、退院支援の「入院サポート」部分について述べる。

1. 入院前面談

入院前の生活状況や住環境、家族構成、介護体制、治療に対する受け止めや入院に対する希望などを確

認する。そして、入院前との変化を予測し、患者背景からどのような社会的サポートが必要になるかを抽出していく。そして医師、病棟、MSW、退院調整看護師などと連携をとり、患者、家族と共に退院後の生活をイメージしながら、退院に向けた準備を入院前から開始していく。

2. スクリーニング

「TSCアセスメントシート」を用いて、退院支援・調整が必要な患者をスクリーニングしていく。アセスメントシート項目はそれぞれ点数化されており、合計点数が5点以上を退院支援「要」とし、患者支援センターに依頼を行っている。スクリーニング項目は以下の項目によって構成される。

- ①年齢（65歳以上、以下）
- ②入院形態
- ③家族形態および介護力
- ④介護保険認定関連
- ⑤身体的機能
- ⑥認知機能
- ⑦退院後も継続して必要となる医療処置

3. 感染症チェック

安全、安心な療養環境を提供するために、入院時に流行性の感染症についての罹患の有無、接触状態などを確認するとともに、体温測定を行っている。

4. 今後の課題

現在、看護師の入院前サポート以外に、薬剤師による、薬剤チェックや抗癌剤の説明、栄養士による栄養相談、食物アレルギーの確認、癌専門看護師によるサポートなど様々な角度から患者をサポートするシステムを構築中である。患者が安心して療養生活を送れるよう、また、満足できる入院生活を実現できるように、他職種による連携を強化し、入院前サポートを充実させていきたい。

（にき まちこ：看護部外来 主任）

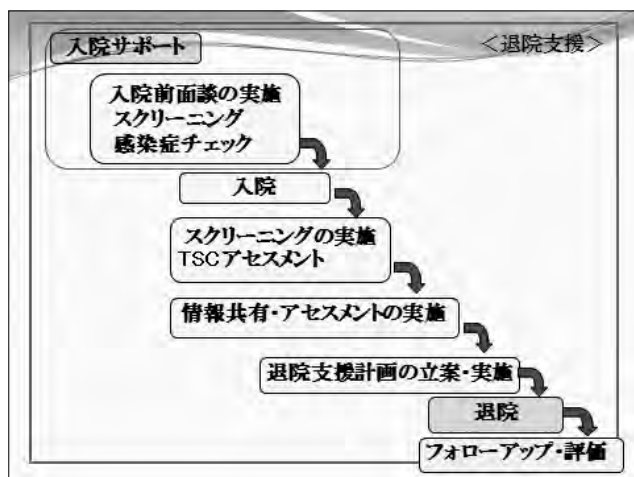


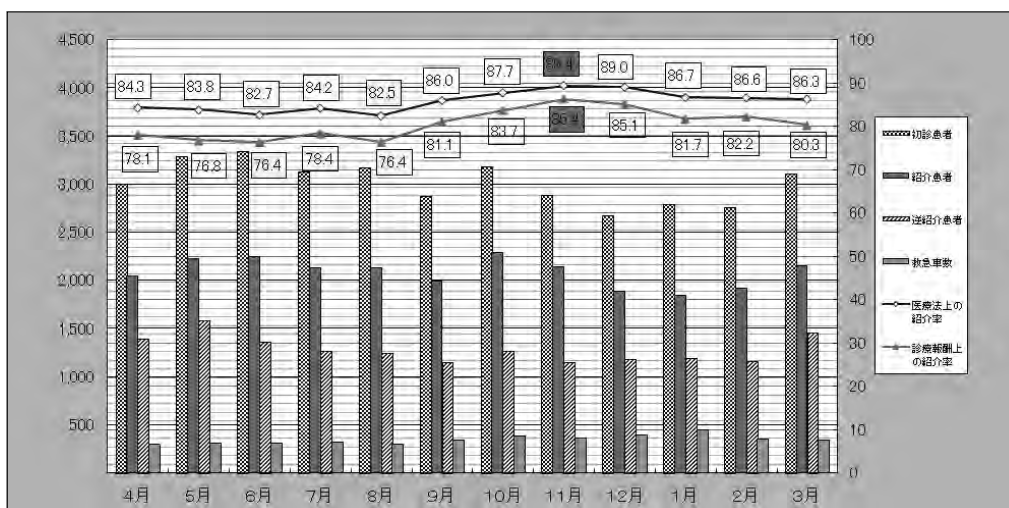
図1 退院支援フロー

平成24年度患者紹介率について

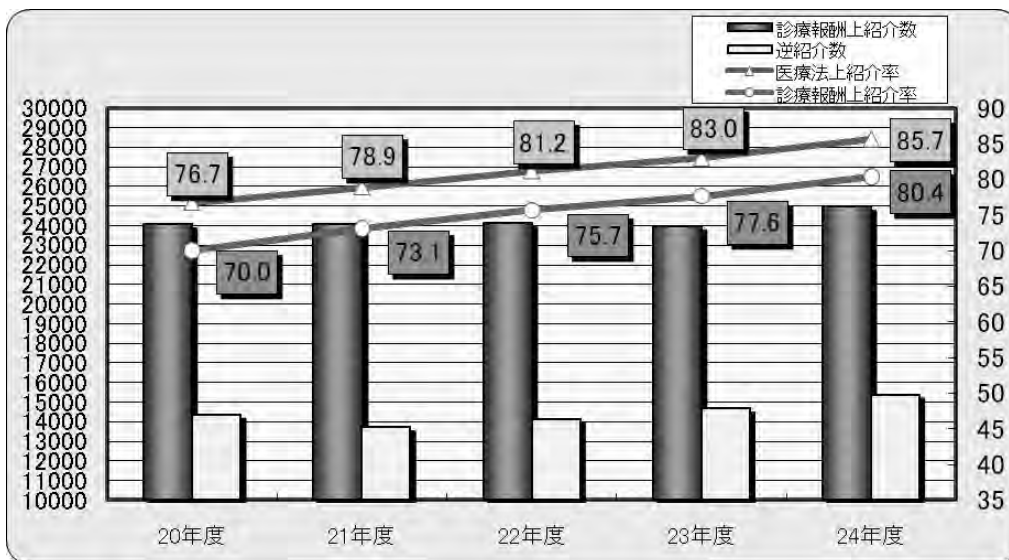
北里大学病院 患者支援センター部

平成24年度の患者紹介率は、年度平均で医療法上85.7%（昨年83.0%）、旧診療報酬上80.4%（昨年77.6%）になりました。前年度は、全体的には各医療機関をはじめ近隣の医師会・地区病院協会の皆様方のご協力で高い紹介率の維持ができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

現在当院では、新病院の建設がお蔭さまで順調に推移しております。来年のゴールデンウィーク明けには新しい病院で新たな業務をスタートさせる予定としております。今年度も地域医療の発展に取り組む所存です、引き続き皆様方のご協力をお願い申し上げます。



24年度度紹介率月別推移



年度別紹介率/逆紹介数推移

患者支援センター一部 スタッフ紹介



あらかし じゅんこ
荒木 淳子

看護師になり13年間、NICUで新生児看護に携わってきましたが、この4月に患者支援センターに異動になりました。学びの多い毎日で、とても新鮮な気持ちで過ごしています。患者・家族が安心して退院を迎え、在宅療養を続けられるように病棟、外来と連携して頑張りたいと思います。



ことう えみ
古藤 絵美

看護師の資格を取得し16年目となります。ER、ICU、心臓血管センターを経験し、今年4月より患者支援センターへ移動となり、1ヶ月が経過しました。学びの毎日で、自分ができることもまだまだ数少ないですが、患者・家族の方が安心して自宅退院ができるよう、今までの経験を活かして、がんばっていききたいと思います。



みやもと たつや
宮本 竜也

ソーシャルワーカーの宮本竜也と申します。北里大学病院に入職し、仕事を始めてから早2か月。毎日が新しいことへの挑戦で、わくわくしています。趣味はサッカーとダンスで体を動かすことが大好きです。スポーツでのフットワークの軽さを仕事でも生かせたらなと思っています。まだまだ、未熟者ですがみなさんよろしくお願いいたします。



はっとり
服部 ゆかり

このたび、平成25年4月1日付けで、北里大学病院の患者支援センター部、病診連携に配属となりましたので、この場をお借りしてご挨拶を申し上げます。

私は、入職してから8年間、北里大学病院の医事課の入院計算係に所属しておりました。そして、4月より看護師やソーシャル・ワーカーなど他職種の方々の中で業務を行う患者支援センター部で新たにスタートすることとなり、今不安と期待でいっぱいです。

私が担当する患者支援センター部の“病診連携”は地域医療機関ならびに地域関連施設等との連携を円滑に行なうとともに、特定機能病院として地域完結型医療ネットワーク確立を目指しております。具体的な業務内容は、①情報提供書の処理（複写・郵送・コスト算定）②病院マスター管理③連携病院宛外来担当表送付④紹介先検索・案内⑤診療・検査予約サービス⑥紹介率等統計業務⑦連携病院の業務に係わる案件処理です。

業務内容が、主に対患者から病院間とのやりとりへとシフトしますが、患者様が安心して医療を受けられるように、これからも力を尽くして頑張っていきたいと考えております。宜しくお願い致します。

〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里1-15-1
北里大学病院 患者支援センター部
TEL 042-778-9988 FAX 042-778-9599
<http://www.kitasato-u.ac.jp/khp/>
E-mail / shoukaiw@kitasato-u.ac.jp